

行われ、いずれもその効果が示された。しかし、この2枚の線状ブロックが実際の歩行環境の中でどの程度の役割を果たし、利用可能なものかどうかの評価が重要であり、聴講者からもこの岡山県方式の有効性を疑問視する意見が出た。

2c-4 視覚障害者の道路横断における縁石と点字ブロックの方向定位への寄与

発表者：高橋了子（岡山県立大学）、田内雅規

横断方向や縁石との関係から、横断歩道手前の点字ブロックの敷設方法の問題点について、総社市、大分市、広島市を対象とした広範囲な実態調査の結果が示された。現状では、道路横断の方向定位のために、点字ブロックに対し過度の期待が持てないことが明らかにされた。これより、本来問題とすべきは、わが国の道路整備は歩行者優先の考えが乏しく、道路横断のための視覚障害者用誘導ラインやバンフなどの方策が講じられていないことだといえる。

2c-5 視覚障害者用音響式信号機等の実態調査

発表者：北山一郎（兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所）、大森清博、松野博文、市原考、多淵敏樹

神戸市内40箇所の、視覚障害者用音響式信号用スピーカ、歩行者用信号灯器、押しボタン箱、交通弱者用押しボタン箱の設置状況について実態調査が行われ、統一性を欠く現状の設置状況が問題点として指摘された。また、音響信号器について特に、張り出しバーを用いて横断歩道帯の中央にスピーカを設置するという、音の指向性を考慮した誘導方法が提案された。

2c-6 視覚障害者誘導用ブロック型音声案内システムの音環境評価例

発表者：坂口陸男（日本道路株式会社）、長尾裕介、秋山哲男

視覚障害者誘導用ブロック型の音声案内システムについて、米子市内の設置箇所における音量測定と、被験者評価および周辺住民に対するアンケート調査の実施結果が報告された。4地点での聞き取りやすさ評価のグラフから、数m地点まで高い評価が得られることが読み取れた。住民の評価もおおよそ良い結果であった。システム音量の距離減衰については、現場の騒音と理論的に分解、合成して示す方法が妥当だと思われる。

セッション2d「交通システム」

座長：木村一裕（秋田大学）

2d-1 公共交通：権利かそれとも恩恵なのか

発表者：古瀬敏（静岡文化芸術大学）

副題に「スペシャルトランスポートサービスの関わりも念頭に」とあるように、公共交通が具備すべき性質としてのユニバーサル性について、歴史的経緯をふまえ、現状を評価したものである。著者はスペシャルトランスポートの非ユニバーサル性がある程度容認しつつも、特別対応の正当性を検証する必要があるとしている。質疑では、わが国における「権利」や「個人の尊厳」に対する認識の低さについて討論された。

2d-2 障害者・高齢者の移動システムに関する考察

発表者：藤井直人（神奈川県総合リハビリセンター）、秋山哲男

障害者・高齢者の移動システムについて、わが国の介護タクシーやロンドン型タクシーなどのタクシーデザインの状況をふまえて、こうした個別交通に依存した移動システムが、スウェーデンやフィンランドをはじめ